

まっすぐ実行一直線!

# 森下ゆたか

いまこそ**実行一直線!**  
いよいよ**改革の完成へ**  
「**橿原再生**」に向け、  
本当の**幕開け**です。



都市を整備し、  
住みやすい  
まちづくり

誰もが  
暮らしやすい  
まちづくり

歴史遺産を  
伝えます

未来型企業を  
誘致します

市民の  
命を守り、  
助けるために

近隣市町村との  
信頼関係を

情報の垣根を  
取り払います



## 実行一直線 その1「都市を整備し、住みやすいまちづくり」

県立医科大学の生駒市への移転問題も、ようやく落ち着きました。これからは、よりいっそう県立医科大学との連携を強化すると同時に、**地域の特性を生かした大学誘致**も進めていきます。新しい大学ができることにより、若者層が増えて地域が活性化。さらに産学連携により産業が発展したり、経済効果が期待できたりと、さまざまなメリットが得られます。

また都市整備については、近鉄大和八木駅周辺はバリアフリー化が完成していますが、継続して国道24号線の歩道整備（八木駅から医科大学）を進めていきます。**新しいものをつくるのではなく、今あるものを有効に活用する**というのが基本的な考え方。これからも住みやすいまちづくりを進めていきます。



## 実行一直線 その2「誰もが暮らしやすいまちづくり」



「どうしたら若い世代が橿原市に住んでくれるのか」「どんなサポートをしたら子育てしやすいのか」「高齢者がストレスなく暮らせる環境とはどんなものか」。誰もが暮らしやすいまちづくりをしたいと思います。

社会状況の変化により、子育てを取り巻く環境が変わってきました。「かしはらナビプラザ」内の「**こども広場**」には、お子さまの一時預かりや子育て相談など、より皆さまに利用して頂きやすい環境を整えました。たとえば「**ファミリーサポートセンター**」は、私が市長就任後に取り組んだ事業で、育児の援助を受けたい方と援助を行いたい方双方の橋渡しをお手伝いし、子育てと就労の両面から支援させていただくものです。

また、小学校の余裕教室を活用し「学童保育所」として使用できるよう取り組んでいる「**放課後児童健全育成事業**」にも力を注いできました。子育て支援として今後特に力を入れていきたいのは、**幼稚園と保育園の機能を併せもつ「橿原市方式のこども園」**の開設。幼児教育と保育環境の質の向上を図っていきます。

**年齢とともに変わる生活環境に合わせて、住まいを柔軟に変えられる仕組み**も整備します。具体的には、子育てが終了して庭付きの広い家に住んでおられる高齢者の方に、買い物などにも便利な中心部に移り住んで頂く。そして、子育て世代にそこに住んでもらい、のびのびと子育てをしてもらう。住宅と世帯のミスマッチをなくすお手伝いをする事で、子どもからお年寄りまで、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていきます。

## 実行一直線 その3「歴史遺産を伝えます」



橿原市には、世界遺産の暫定リストに入っている藤原宮跡と大和三山があり、1300年前に都が置かれた場所でもあります。橿原市は、世界に誇れる歴史都市なのです。2011年4月、観光情報の発信基地としてオープンした**橿原市観光交流センター「かしはらナビプラザ」**。ここは**橿原市だけでなく、明日香や桜井、吉野など、近隣の観光拠点**にもなっています。1階では各市町村が情報を発信できるようになっており、旅のメニューづくりができます。これまでこのような形で連携をとることはありませんでした。私が市長に

就任してから旗振り役となり、**市町村で助け合いをしよう**と呼びかけをしました。手をつなぎ、今後もみんなで地域を盛り上げていくその中心に、橿原市を位置づけていきます。

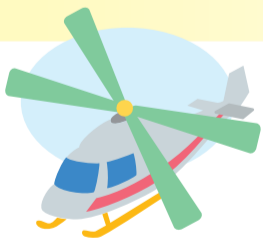
## 実行一直線 その4「未来型企業を誘致します」

高速道路の開通や整備のおかげで、周辺都市との交通がますます便利に。南阪奈道路を使えば、神戸・大阪・京都の各市内まで約1時間。また、京奈和自動車道が整備されると、和歌山までたったの40分で行けるようになります。

こうしたマーケットの広がり、企業誘致のまたとないチャンス。そこで、地の利をアピールして、**最先端の技術をもつ企業の誘致**に力を入れています。市内に企業が増えれば、**税収や雇用が増えるというメリット**が得られます。独自のすぐれた技術に新たな技術や発想が加わり、他にはない価値をもつ新時代を切り開く産業や企業が生まれることになるのです。



## 実行一直線 その5「市民の命を守り、助けるために」



自然災害にあったとき、生活の拠点となる避難所。少しでも余計なストレスを感じず暮らせるように、災害対策を立てています。**避難所となる小・中学校の体育館の耐震工事はすべて終了**。補強が必要な学校に関しては、平成27年度までには完了させます。

また、より多くの生命を守るため、橿原市を軸に、明日香村、高取町と、大和高田市、御所市を含めた、現在の「**中和広域消防組合**」の**広域化計画**を進めています。広域化すると、広い地域にバランスよく消防署が配置できるうえ、ドクターヘリやレスキュー隊を所有することができるようになり、消防活動のレベルとスピードがアップします。さらに「**助かる命**」を助けるため、広域消防組織の誘致を実現していきます。

## 実行一直線 その6「近隣市町村との信頼関係を」

いわゆる「平成の大合併」も終わり、各自治体の基盤が整ってきました。これからも近隣の市町村と連携をとりながら、橿原市がリーダーシップをとって様々な事に取り組んでいきます。**各自治体の首長と密にコミュニケーションをとり**、困っておられるときには手を差しのべて信頼関係を築き、互いに手を取り合っ、この中南和地域を元気にしていきます。

たとえば、休日夜間応急診療所。地域別の利用割合をご存じでしょうか。全体の6割が橿原市内の方の利用、残りの4割は中南和地域の方の利用です。このことも橿原市が中南和の拠点都市であることを示しており、広域連携できることのひとつです。今後も、広域を見据えた施設の充実を図っていきます。



## 実行一直線 その7「情報の垣根を取り払います」



自らの市政について想いを伝え、**市と市民の皆さまの間の情報の垣根を取り払う「シティフォーラム」**を開催してきました。こうしたフォーラムを開催するというのは、橿原市政の歴史の中では、初めての試み。市民の皆さまと**一緒にまちづくりについて考える貴重な場**であると実感しています。

また、市民の皆さまからの問い合わせを一元化し、休日や夜間においても気軽にお問い合わせいただける「**かしはらにこここコール**」を開設しました。今後も市民サービス向上の努力を続けていきます。